

## 新たな意味や価値をつくりだすことができる生徒の育成 ～主題を追求し実現させる授業を通して～

### I 主題設定の理由

学習指導要領解説では、「美術科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方として、表現及び鑑賞の活動を通して、よさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る力である感性や、想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすことが考えられる」<sup>1)</sup>と述べられている。自分としての意味や価値をつくりだしていくためには、表現において「上手」か「下手」かといった価値観で制作するのではなく、生徒が自ら強く表したいことを心の中に思い描き、生徒自らが生み出した主題を追求して実現することが大切であるとする。また、美術科は自分のつくりたいと思ったものを自由に表すことができ、自分でゴールを見付け、つくり出すことができる教科である。そのため、主題を追求し実現する過程において、造形的な見方・考え方を働かせて表現したいものを考えたり、作品から表現のよさを発見したりするなど、新たな意味や価値をつくりだす活動を繰り返すことで、新たな意味や価値をつくりだす力をより高めることができると考える。

教育の未来を描く、OECD Education2030プロジェクトのラーニング・コンパスにおいて、2030年の未来に求められる「変革をもたらすコンピテンシー」の一つとして「新たな価値を創造する力」が位置付けられている。また、鈴木敦子は「創造性の育成は、美術の目標であり、創造的な表現活動に取り組む美術の学習は、今後のコンピテンシー育成に大きな役割を果たすことが期待される。」<sup>2)</sup>と述べている。このことから、これからの時代に起こるであろう複雑な事象や諸問題の解決には、既存の知識や常識の枠組みに捉われない、新たな意味や価値をつくりだしていくことが求められており、その中で美術の役割は重要であるとする。

本校美術科では、主題を実現する過程において、対象や事象を造形的な視点で見て、他者と協働しながら感性や想像力を働かせ自分としての意味や価値を見いだしたり、価値づけしたりする活動を行い、それを繰り返すことで新たな意味や価値をつくりだすことができるようにしていくことを目指す。創造性が高まれば、作品を見て作品の意味や価値を創造して感動したり、自然や身の回りにあるもののよさや美しさに気付いたりしやすくなり、豊かな情操を養うことができ、人生をより豊かにすることができると思う。

前研究シリーズでは「主題を追求し実現することができる生徒の育成」を研究主題として実践を行ってきた。成果として、表現するための基礎的な知識・技能を習得させるとともに、発想し構想を練り、作品を制作していく過程において、常に主題を意識させ、表現を振り返らせながら表現をさせていくことが、主題を追求し実現することにつながったと考える。しかし、主題を追求していく際に、主題がより深まっていったり、制作途中に表現方法が変容していったりする思考のプロセスを明らかにできるような手立てが不足していたことから、最終的になぜその主題になったのかや、なぜそのような表現方法になったのかという過程を、生徒自身が自覚しにくかったという課題が残った。そこで、「見通し、行動、振り返り」という「AARサイクル」<sup>注1)</sup>を基にした考え方で、「工夫ポイント」を学習し活用方法を見いだしたり、こまめに自分の制作について振り返ったりすることで、アイデアスケッチや制作の際に見通しをもつことができ、主体性を発揮しながら活

動に取り組むことができるようになると思う。

さらに、主題に用いる言葉を付け足したり、より具体化したりすることで、主題を深めることや、表現方法の変容を明らかにしながら、思考のプロセス振り返らせていくことで、主題を追求し主体性を発揮しながら実現する深い学びにつながると考える。そこで、本校美術科における深い学びを、「主題を追求していく過程で、事前に学んでいた『工夫ポイント』についての知識を活用させながら表したいことを考えて、アイデアスケッチに表し、制作過程で他者と協働しながら自分の表したいことについての考えを深めていく過程で意味や価値をつくり出すこと」とする。また、主題を追求し実現する過程で、工夫ポイントの活用方法を考える場面や、自分の表したいことを効果的に表現する活動、作品を振り返る場面などを繰り返すことで、さらに新たな意味や価値をつくり出す力を高めることにつながると考える。

以上のことから、本研究シリーズでは研究主題を「新たな意味や価値をつくり出すことができる生徒～主題を追求し実現させる授業を通して～」と設定した。

## Ⅱ 研究の概要

### 1 美術科が目指す生徒像

本校美術科では、次のような生徒を育てたいと考える。

主題を追求し実現することで、新たな意味や価値をつくり出すことができる生徒

「主題を追求し実現する」とは、生み出した主題を基に、発想し構想を練り、表現方法を創意工夫し、創造的に表していくことである。主題を追求し実現するためには、表現するための基礎的な知識・技能を習得させるとともに、発想し構想を練り、作品を制作していく過程において、常に主題を意識させ、他者と協働させながら表現を振り返らせ、表現をさせていく必要がある。

「新たな意味や価値をつくり出す」とは、対象や事象を、造形的な視点で捉え、他者と協働しながら感性や想像力を働かせ、自分としての意味や価値を見いだしたり、価値づけをしたりすることができることである。また、他者と協働することで、一人で考えるときには思いつかない視点や考えを得ることができ、自身の新たな意味や価値を見いだすことにもつながると考える。

### 2 育みたい資質・能力

美術科で目指す生徒を育てるためには、次の資質・能力を育む必要があると考える。

- 主題を基に、発想し構想を練る力
- 主題を基に、創造的に表す力

「主題を基に、発想し構想を練る力」とは、生み出した主題を基に、基礎的な知識・技能を活用して、自己の表したいことを考えたり、目的や機能を踏まえたりしながら多くのアイデアを豊かに発想し、表したいものの構想を練る力のことである。また、「主題を基に、創造的に表す力」とは、材料や用具などを生かし、表現を振り返りながら見通しをもって自分の生み出した主題を表していく力のことである。

### 3 資質・能力を育むための手立て

個に応じた指導の充実を図り、知識・技能を段階的に習得させ、資質・能力を育てていくために、題材の流れの中に「つかむ場」「追求する場」「ふりかえる場」という三つの場を設定し、それぞれの場ごとに手立てを設定した。特に「追求する場」においては、制作の途中で変化した主題や、毎時間の表現方法の工夫や、表現の意図などをワークシートに記述させ、制作とともに深まっていく主題や、表現方法の変容を自覚させながら、見通しをもたせていくようにする。

#### (1) 「つかむ場」

「つかむ場」は、本題材がどのようなものなのかをつかみ、「工夫ポイント」を学び、主題を生み出していく場である。まず、本題材のねらいや条件を伝えたり、必要に応じて参考作品を鑑賞させたりすることで、どのような題材かを把握させる。次に、「工夫ポイント」を学ばせるために、「工夫ポイント」が意識できる参考作品を鑑賞させ、その効果や特性について友達と意見交換させたり、「工夫ポイント」を意識して簡単な表現をさせたりする。「工夫ポイント」に関わる知識を得ることで、アイデアを考える際の手がかりになり、作品制作への見通しがもてるため、主体性を発揮して制作に取り組むことができるようになることを考える。そして、自らが感じ取ったことや考えたこと、作品制作のねらいや条件などを基に、題材について思い浮かべたことをワークシート（後掲1）に整理していき、自分が何を表したいのかを整理していくことで、自分が強く表したいものが分かるようにする。最後に表したいものを主題としてワークシートに記述させる。

#### (2) 「追求する場」

「追求する場」は、生み出した主題を基に発想し構想を練るアイデアスケッチや試作と、材料や用具などをいかして作品を制作する本制作を行わせていく場である。生み出した主題を基に、「工夫ポイント」を活用しながらアイデアを発想させ、アイデアスケッチや試作をさせる。次に、自分だけでは思いつかないアイデアを得るために協働的な学びとして中間鑑賞会を行わせる。アイデアスケッチや試作を基に、主題が「工夫ポイント」を活用して表現されているかなどを意見交換させ、ワークシートや付箋紙に記述する活動を行わせる。ワークシートや付箋紙に書かれた記述から、「工夫ポイント」の新たな活用の仕方に気付かせ、参考になりそうなアイデアを見つけていく。次の構想を練る場面では、中間鑑賞会での友達の意見や気付いたことを、どのように取り入れるかを取捨選択するように促した上で、アイデアスケッチや試作を見直させていくことで、より主題が表れるアイデアの最終版の構想を練ることができるようになっていく。また、「工夫ポイント」を活用しているか確認させながら発想し構想を練らせていくために、アイデアスケッチや試作に、主題を表すために「工夫ポイント」をどのように活用しているかをワークシートに記述させ、それを振り返らせながら表現の見通しをもたせていく。

そして、本制作では、主題を表すために材料や用具などを生かし、表現を振り返りながら見通しをもって作品を制作させていく。その際、個々の生徒の実態や表したいものに応じて材料や用具などを選択する幅をもたせ、学びの個別最適化を図る。さらに、制作の途中で変化した主題や、毎時間の表現方法の工夫、表現の意図などをワークシートに記述させたり、写真として作品の経過を記録させたりする。そうすることで、制作とともに深まっていく主題や、表現方法の変容を自覚させながら、見通しをもたせていく。本制作時には、毎時間の授業の最初や終わりに短時間の鑑賞の時間を設け、互いの作品の鑑賞や、意見交換をできるようにさせる。そうすることで、主題を表すための「工夫ポイント」の活用の仕方や、材料や用具などの生かし方などを

見付けさせ、それを基に表現を振り返らせながら見直しをもって表現させていく。

### (3) 「ふりかえる場」

「ふりかえる場」は、主題を表すために「工夫ポイント」を活用していくことがどのように効果的だったかを考えさせたり、生み出した主題を実現することができたかを振り返らせたりし、自分の制作過程での成果を自覚させる場である。本制作をして完成した自他の作品を鑑賞させる最終鑑賞会を行い、友達作品を、主題と表現のつながりを意識して鑑賞することで、主題を表すための多様な表現に気付かせる。そうすることで、「工夫ポイント」を活用していくことがどのように効果的だったかの理解を深めさせることができる。さらに、学んだことをワークシートに記述させることで、学んだ知識・技能が他のどのような場面で生かせようかを考えることにつなげていく。

## 4 資質・能力が育まれたかの評価について

「主題を基に、発想し構想を練る力」については、主題を基に「工夫ポイント」を活用して豊かに発想し構想を練ることができたかをワークシートから評価し、「主題を基に、創造的に表す力」については、主題を表現するために、「工夫ポイント」を活用して、表現を振り返りながら見直しをもって表すことができたかをワークシートや作品から評価することで、手立ての有効性を検証する。

## 5 1年次のねらい

1年次では、「工夫ポイントの活用」や「写真やワークシートでの制作過程の振り返り」の手立ての有効性についてワークシートや作品から見取ることで検証していく。

注1) AARサイクルについて白井俊は、「AARサイクルとは、“Anticipation-Action-Reflection”の頭文字をとったものである。それらを日本語に直訳すると、「見直し、行動、振り返り」ということになる。」「教師による「見直し」や「振り返り」の実践が否定されるものではないが、より重要なのは、その結果として、生徒が自ら「見直し355」や「振り返り」を行っていくことができるようになるのか（すなわちAARサイクルをまわすことができるようになるのか）、という点だろう。」と述べており、このプロセスで学ぶことは、生徒に求められているコンピテンシーを育てていくのに必要な学習プロセスとされている。

注2) 「工夫ポイント」とは、主題を表す上で題材に応じて意識させたい基礎的な知識・技能として教師が設定する造形的な視点である。

## 引用文献

- 1) 文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』日本文教出版、2017年
- 2) 鈴木淳子『美術科教育の理論と指導法』日本文教出版、2021年

## 参考文献

- 鈴木淳子『美術科教育の理論と指導法』日本文教出版、2021年
- 白井俊『OECD Education2030プロジェクトが描く教育の未来』ミネルヴァ書房、2020年
- 奈須正裕『個別最適な学びと協働的な学び』東洋館出版社、2021年
- 大橋功『美術教育概論（新訂版）』日本文教出版、2018年
- 奥村高明『マナビズム』東洋館出版、2018年

後掲 1

# 「夢に向かって」～図法と素材を活用して表そう！～

3年 組 番・氏名 \_\_\_\_\_

## ★ 工夫ポイント2 [素材]

素材が与える印象について考えよう！

| 素材 | 与える印象 |
|----|-------|
|    | →     |
|    | →     |
|    | →     |
|    | →     |
|    | →     |
|    | →     |
|    | →     |
|    | →     |

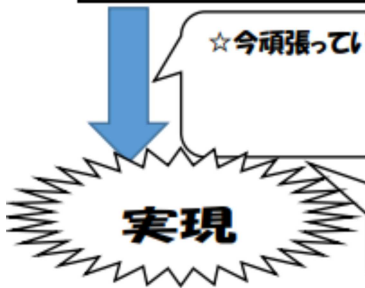
★素材の何によって印象が変わるのか考えよう！

## ★「主題」を生み出そう！ 主題とは：作品を通して、自分が強く表したいもののことである。

① 夢（目標）に向かって頑張っている自分を知ろう

私の夢・目標！（できるだけ具体的に）

☆今頑張っていること、これからがんばりたいこと、頑張らなければいけないこと



★夢や目標の障害になっていること、不安要素

② 様々な思いを基に、主題を生み出そう！

夢(目標)に向かって・・・〇〇ている私(主題)

「

」ワタシ

主題設定の理由

主題から連想される素材：